

未来志向 獣がいへの知恵

丹波篠山 地域外の団体・若者ら活動語る

4回目を迎える「獣がいフォーラム」(実行委員会主催)が10日、丹波篠山市民センターで開かれた。獣がい問題を学んだことなどをきっかけに活動を始めた若者や団体を取り組みを発表した。

同市では、サルやシカなどの野生動物を「害」でなく地域にプラスの存在に変えていく、多様な人材を呼び込んだ新たな視点での対策に取り組んでいる。

フォーラムでは、「獣がい対策を通じて地区のファンを増やすことになれば」と、地域外から参加者を募って住民と一緒に獣害防止柵の点検や修理をする同市畑地区の「さく×はた合戦」の取り組みを、神戸大の准教授が紹介。NPO法人里地里山問題研究所(同市)の代表理事は、自慢の地区を未来に継承したいなどの目標を掲げ、クラウドファンディングで寄付を募った新温泉町春來区の事例を挙げ、共感とともに100万円以上の寄付が集まって被害防止の柵を設置した経緯について発表した。

同市の市立天山小学校は、NPOなどの支援を受けてスイカを被害から守った活動について発表。県立篠山東雲高校3年のさんは、放置されていると獣のえさとなる柿の実を材料にロールケーキを開発し、店頭での販売も実現できたことを報告した。このほか、京都府立大生1年生のさん、篠山ロータリークラブも活動を発表した。

(前田智)



高校生や大学生らも出席して開かれた「獣がいフォーラム」＝丹波篠山市黒岡

朝日新聞

2022年1月11日